

す。この数値の意味は、JRA のウェブサイトではとりあえず以下のように書かれています。

「種牡馬の優劣を判定するためのめやす。出走馬 1 頭当たりが獲得した賞金の平均値を 1.00 として各々の種牡馬の産駒の平均獲得賞金の割合を数値で表したもの。1.00 が平均となり、数値が大きくなるほど産駒が多く賞金を獲得していることを表わす。これを算式で示すと（産駒の総獲得賞金÷産駒の出走頭数）÷（出走馬の総獲得賞金÷総出走頭数）となる」

しかしです。本当にその種牡馬の優劣がこの数値で判定できるのでしょうか？ ディープインパクトがリーディングサイヤーに君臨時は、その E I の値も飛び抜けていました。E I は、確かに産駒成績から算出しているの、その種牡馬の産駒の総合的なレベルを表しているのかもしれませんが、種牡馬ごとの交配牝馬の質にはかなりの差があることから、その種牡馬自身の「種牡馬としての能力」を表しているとは限らないのです。

このことから E I とは、いかに交配相手に名牝をたくさん集めたかを示す数値であるのかもしれませんが。E I に、交配した牝馬の能力や資産価値（例えば重賞勝数や繁殖牝馬市場で購買した価格）のような係数を掛けることがもしもできたならば、ディープインパクトの値は一気に下落するのではないのでしょうか？ つまり、コスパの点ではまったく劣っていることが明示されてしまうかもしれないのです。

以前、上記の趣旨を SNS に書いたところ、ハーツクライやキングカメハメハもディープインパクトと同等の良血牝馬が配合されているので、これら各馬の E I がディープインパクトの数値に肉薄していないと、その理屈は整合性が取れないとの声をもらったことがあります。

けれども、総合的に見て、ハーツクライやキングカメハメハもディープインパクトに集まった繁殖牝馬群と同等レベルの牝馬群が集まったとは思えません。海外から超名牝がディープの血を求めて単発的に来日し、現地に戻って出産する例もあり、その最たる例が英ダービーを含めた G I を 6 勝の *Auguste Rodin* でしょう。

1.17 ディープインパクト産駒の G I 馬の母系

長い間、日本のリーディングサイヤーとして不動の地位を築いたディープインパクト。晩年の種付料は 4000 万円まで高騰しました。しかし、叩き上げで登りつめた名種牡馬とは違い、当初から超一流の繁殖牝馬をあてがったうえでのリーディングの座ですから、この馬の種牡馬としての実力はどうだったのでしょうか。

ディープインパクト産駒の G I を勝った馬は本年 8 月末現在 59 頭いるのですが、次々々頁の図表 1 はこれらの近親にどれだけ G I 馬がいるかというものです。○が G I 馬です（同じく本年 8 月末現在）。なお、これら近親が勝った G I は国際格付前のもの（JpnI 等）も含み、一番右の列の「仔」は牝馬の場合においてです。

あまりに○が多いと思いませんか？ これらの○がついた馬でも、「母」が○であるのが俗に言う「良血」の度合は最高で、次に「祖母」「きょうだい」ということになるのでしょうか。つまり、単にこの表において○の数が同じ馬は同じ良血度合というわけではないのですが、このように一覧化して眺めると、浮き彫りになって見えてくるものがあります。

母か祖母が○の馬は 59 頭中 25 頭（42%）もあり、つまり父ディープの G I 馬の 4 割超が母方直系近親に G I 馬がいるということです。究極の例がそれこそ *Auguste Rodin* で、この表の中で母と祖母の双方に○がついている唯一の馬であり、その樹形図（頁は 3-d-2 の右側）を眺めると、下線を付した馬が上下に重なり合うのが壯観です。

さらに、きょうだいに○がある馬も加えると 40 頭（68%）にもなり、この表のいずれか（一番右の列の「仔」は除く）に○がついている馬は 51 頭（86%）にもものぼります。○がない馬でも、近親の範囲をもう少し広く眺め、G II や G III 勝ちの近親馬もピックアップすれば、○の数はどこまで増えるのでしょうか。

グランアレグリアが勝った 2019 年の桜花賞には 5 頭のディープインパクト産駒が出走しま

(図表1) ディープインパクト産駒のG I馬の母系

	母	祖母	きょうだい	おじおば おいめい	いとこ	仔
2008 年生	ダノンシャーク					
	トーセンラー		〇〇			
	マルセリーナ	〇				
	リアルインパクト		〇	〇		
2009 年生	ヴィルシーナ		〇〇			
	ジェンティルドンナ	〇			〇	〇
	ジョワードヴィーヴル	〇	〇			
	スピルバーグ		〇〇			
	ディープブリランテ					
	Beauty Parlour				〇	〇
2010 年生	アユサン		〇			〇
	キズナ		〇		〇〇	
	ラキシス		〇		〇	
2011 年生	エイシンヒカリ			〇		
	サトノアラジン		〇		〇	
	ショウナンパンドラ			〇		
	トーセンスターダム			〇		
	ハープスター		〇	〇〇		
	マリアライト		〇			
	ミッキーアイル					〇
2012 年生	ショウナンアデラ		〇			
	ダノンブラチナ		〇			
	ミッキークイーン			〇		
	リアルスティール		〇	〇	〇	
2013 年生	ヴィブロス		〇〇			
	サトノダイヤモンド	〇		〇		
	ジュールポレール		〇			
	シンハライト	〇				
	ディーマジェスティ					〇〇
	マカヒキ		〇			
2014 年生	アルアイン	〇	〇			
	サトノアレス					
	Fierce Impact			〇		
2015 年生	グローリーヴェイズ					
	ケイアイノーテック		〇			
	ダノンプレミアム					
	フィエールマン	〇				
	ワグネリアン					
	Saxon Warrior	〇				〇
	Study of Man		〇		〇〇	〇〇
2016 年生	グランアレグリア	〇				
	ダノンキングリー		〇	〇		
	ダノンファンタジー	〇				
	ラヴズオンリーユー		〇	〇	〇	
	ロジャーバローズ			〇	〇	
	ワールドプレミア			〇		
2017 年生	コントレイル		〇			
	ポタジェ	〇			〇	
	レイパパレ					
	Fancy Blue				〇	〇
2018 年生	アカイトリノムスメ	〇				
	シャフリヤール	〇	〇			
	Glint of Hope				〇	
	Profondo					
	Snowfall		〇		〇	

(図表1の続き)

		母	祖母	きょうだい	おじおば おいめい	いとこ	仔
2019年生	アスクビクターモア			○		○	
	キラアビリティ	○					
	ジャスティンパレス			○			
2020年生	Auguste Rodin	○	○		○		

したが、この馬を含めて4頭の母は輸入G I馬でした。例えばPOG（ペーパーオーナーゲーム）をやっている方は感じたかもしれませんが、いかにディープ産駒に輸入G I馬を母に持つ馬が多かったか。そして、そんな「超良血」ながらも、まったくの鳴かず飛ばずの馬は山ほどいるのが現実です。

同様に、図表2および図表3は、ハーツクライおよびキングカメハメハの産駒における一覧です。ハーツクライにしてもキングカメハメハにしても、G I馬を出した数はディープインパクトに比べれば確かに減ります。しかし、果たして、ディープに集まった牝馬群と同等レベルの牝馬群が集まったかという視点は持たねばならないでしょう。キングカメハメハの方はダイナカール一族のルーラーシップとドゥラメンテ、またシーザリオの仔のリオンディーズで○の数は稼いでいますが、○がついた馬の割合はディープインパクトよりは減ります。或る意味で

(図表2) ハーツクライ産駒のG I馬の母系

		母	祖母	きょうだい	おじおば おいめい	いとこ	仔
2008年生	アドマイヤラクティ						
2009年生	ジャスタウェイ		○				
2011年生	ヌーヴォレコルト						
	ワンアンドオンリー						
2012年生	シュヴァルグラン			○○			
2014年生	スワーヴリチャード						
	リスグラシュー					○	
	Yoshida	○					
2015年生	タイムフライヤー				○		
2017年生	サリオス	○					
2019年生	ドウデュース						
2020年生	Continuous				○	○	

(図表3) キングカメハメハ産駒のG I馬の母系

		母	祖母	きょうだい	おじおば おいめい	いとこ	仔
2007年生	アパパネ						○
	ルーラーシップ	○	○		○		
	ローズキングダム				○		
2008年生	ベルシャザール						
	ロードカナロア		○				
2009年生	ホッコータルマエ						
2010年生	ラブリーデイ						
2012年生	ドゥラメンテ	○	○		○		
	レッツゴードンキ						
2013年生	リオンディーズ	○		○○			
	ミッキーロケット						
2014年生	レイデオロ						
2015年生	チュウワウイザード					○	
2017年生	ジュンライトボルト						
2018年生	ベブチドナイル						
2019年生	スタニングローズ				○		